



朝、校門に立ち、徒然と思う

朝、校門に立ち、子どもたちを迎えます。出張があったり、寝坊して最初の登校班に間に合わなかったりすることもあります。だいたい毎日。(50代過ぎてからは、朝早く目が覚めて老化かと思っていたので、最近の寝坊は若返り化かと少し嬉しい)

ほぼ毎日立ち続けていると、いろいろなことを見たり、聞いたり、考えたりします。子どもが通る時以外は、暇なので……。そんな徒然と思った最近のいくつかを紹介します。

4月から、登校時刻がすごく遅くなった班があります。毎日、見ていてその理由が分かりました。新1年生が入学し、その子のペースに合わせて、班長を先頭にみんなでゆっくり、ゆっくり、ながーい距離を歩いていたのでした。そして、その子の体力が付くにつれて、だんだん到着時間も早くなってきました。それに気付いたとき、班長を始めその班の子どもたちの心のぬくもりを感じ、思わず、褒めました。班長のはにかみながらのニコリ笑顔、素敵でした。

ご近所の方から、声をかけていただくこともあります。「今年も校長先生代りませんでしたね。よかった。」(ちょっと、嬉しい←私の心の声)「今度、寄ってください。おいしいコーヒーありますよ。」(飲みたい←私の心の声)声をかけていただくと、嬉しくて、また、元気に大きな声であいさつします。近くにいた子どももつられて、いっしょにあいさつします。あいさつの輪が広がります。地域の元気に貢献できている気がします。みんなでいい気持ちになれます。

市小学校親善ミニバスケットボール大会で5・6年生がいない朝、あるお父さんが、子ども(低学年)二人といっしょに自転車を引いて登校して来られました。通学路が長く、さみしい道も通るので安全のためにとのご配慮でした。私に子どもたちを引き渡すと、自転車に乗って颯爽と去って行かれました。自動車に乗せてくるのではなく、あえて自転車を引いてついてこられたことに私は、感じるものがありました。必要な支援をしながら、支援し過ぎない、一手間かけた子育てを感じました。ぬくもりの中でたくましさ育てる親の姿を見た気がしました。

先日、4年生のお姉ちゃんから「弟は、寝坊したので後で来ます。」と伝言がありました。1年生の弟ですから、泣きながら家の方に付き添われてくるのかなと思いながら待っていました。そしたら、なんと、一人で歩いて来ました。泣いてなんかいません。「おはようございます。寝坊して遅れました。」と元気に校舎の中へ一人で入って行きました。たくましい。

いよいよ1学期末になります。教育期Ⅱ期のメイン行事「みんなとまろう」も、もうすぐです。今後とも斐太北の子どもたちをよろしく願います。(学校長 加藤晃)

妙高フレンドスクール

6月18日～22日、6年生は、「妙高フレンドスクール」に参加しました。同じ中学校区の6年生と4泊5日の共同生活を送りました。野外炊飯、プロジェクトアドベンチャー、外国語活動、ダンス等に取り組む中で、中学校入学の際の人間関係づくりの素地をつくることができました。

